

*****目次*****

P1	今号の TOPICS	長野 馨
P2	新専任幹事	中山 勝一
P3	仲間たちの近況報告 (1)	
	1 班	田村 仁志
	2 班	飯田 正恒
P4	仲間たちの近況報告 (2)	
	3 班	張間 寛一
	4 班	三嶋 由理子
P5	私の玉手箱	中川 四郎
P6	リレー随筆	堂下 登美子
	自由コーナー	坪井 都子
P7	自由コーナー	堀内 信彦
	俳句コーナー	谷坂 修二
	写真コーナー	星田 京子
P8	樹形ウォッチング	遊上 真一
P9	新人紹介コーナー	
P10	新人紹介コーナー	
	惜 別	宮澤 富美雄

今号の TOPICS 新副代表のメッセージ

副代表を引受けた現時点での心境

3 班 長野 馨

現役時代の人間関係は、上・下、利・害、損・得などの煩わしいシガラミの固まりでしたが、シニア自然大学校の本科で出来ました仲間は以前の様なシガラミなど一切無い素晴らしいものです。

その本科を卒業後、高等科、自然と文化科と自然な流れに沿って進みまして自然と文化科 2 年目の蒜山高原 1 泊バス旅行時に「地球環境自然学講座」の代表をされていまして後藤銃吾さんとたまたまバスで隣合せとなりました。その時、週 3 日程の嘱託勤務を終えようとして決めていましたので“自然学講座を手伝ってくれないか”との依頼に“気軽に考えときます”と返事しましたのが間違いのもとで、翌年より 5 年間「地球環境自然学講座」のスタッフ代表をすることになりました。代表をするような器でないことは十分自覚しており、長期間の固定スタッフによる運営は組織がマンネリ化するなどの弊害が生じることは明確なので昨年半ばに退任することに決めました。

その時期に、‘かけがえのない仲間’であります肥塚さんと溝部代表より副代表への依頼がありました。優秀な人材の

◇自然と文化だより◇

誠に残念ですが野村健次広報専任幹事が去る5月29日逝去されました。

本号の計画や執筆予定者への原稿依頼をされたり、また亡くなる直前迄ホームページの更新も続けられていました。心よりご冥福をお祈りします。(合掌)

残された広報委員会のメンバーとして野村さんの意志を継ぎ、広報業務に取り組んで行きたいと思っておりますのでよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

N.A

豊富な当科にはもっと適任者が居るとの思いとシニア自然大学校、菜園、家内などと少し時間的に余裕をもって過ごしたいとの思いよりお断わりしたのですが、溝部さんがシ 16 期である事、幹事等未経験者となると絞られることや、当科運営に余り関わってはなく他講座の代表経験者としての異なった視点を持った者の運営参加は貴重なので是非！と云われ、このことは「地球環境自然学講座」のスタッフ代表を退任したことに相通ずるものがあるので若輩を重々承知の上でお引き受けすることに致しました。

処で、現在の当校会員の意向は‘仲間とは愉しく過ごしたいがしんどいことはしたくない’の方向に向いているように思います。しかし、19 名でスタートした当科が 100 名超えの受講生を維持できていることは、今迄運営に係った先輩諸兄が当科のモットーであります「学んだ知識を生かし、地域・社会に貢献する」に全員が愉しく参加するとの原点がぶれる事なく、しかも時代の変化を敏感に感じ取り、適切な対応をとってこられたことに因るものだと思います。期待にそえるかどうか不安ですが微力ながらお手伝いさせて頂くことにしました。

また、認定 NP 資格の習得を目指す当校の求めにも沿う行事であります万博ネイチャーラリーも担当することになりました。何をするにも皆様のご協力なしでは何も出来ません、ご協力のほど宜しくお願い致します。



企画専任幹事に就任して

2班 中山 勝一

この度、企画専任幹事に就任した中山勝一です。一昨年、高等科12期を卒業後、自然と文化科に入らせて頂き、昨年企画委員を希望すると同時に班企画幹事になりました。そして本年は代表からの打診と前企画専任幹事も推薦しているとの事で企画専任幹事を気軽に引き受けてしまいました。前年まで地球環境自然学講座のスタッフを務めておりましたので、企画業務は出来ると判断されたのだと思います。自然と文化科における企画の内容もさして理解せず引き受けましたが、2ヶ月が過ぎ、改めて企画の活動の重要性に戸惑っているところです。

自然と文化科の幅広い活動の一翼を担うのが企画の活動と思いますが、全員参加が前提であり、他の観察会活動と違って、歴史文化散策の性格上、同一場所の繰り返し企画は避けざるを得ません。また文化施設の見学では100名近くの人数の受け入れ可能な施設は少ないです。さらにバス旅行も昨今の交通安全問題や爆買ツアーの影響で、料金の高騰とともにバスの確保自体が難しくなっているという環境もあります。企画活動を遂行する上で制約は少なくありません。活動コースの選定には今後も悩まされるように思います。関西出身でない私は土地勘ありませんが、幸い自然と文化科には歴史文化について経験に富み造詣の深い方々が他の団体には見られないほど沢山おられます。これらの人々の思いを吸い上げる事が出来れば、素晴らしい活動になるのではないかと思います。

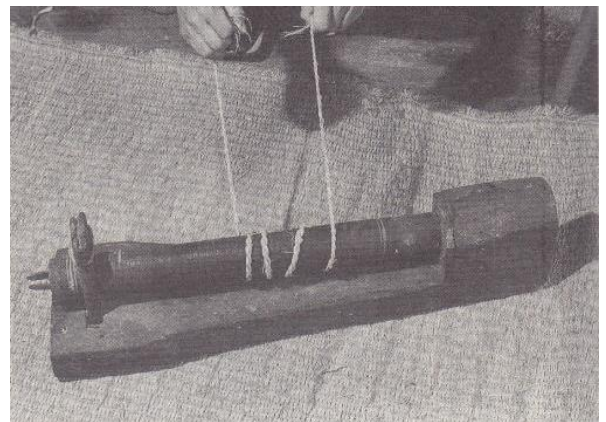
「自然」と「文化」は本科の両輪であると言われる。「文化」を標榜する理由は？ 科員皆様にはそれぞれのご意見があると思いますが、「文化」を「人間の知的進歩とそのなせるわざ」と考えればその対象は広く、歴史遺産・文芸遺産散策、民芸等その土地に根差したモノ作り、自然科学技術の進歩見学など、その中で人が如何に係わってきたかを学ぶことが活動の中心になれば良いと思っています。ある科員はシニア自然大学校で学んだことは地域活動の中で還元している、自然と文化科は充電の場であると言っていました。自然と文化の活動で「ああそうだった」と自覚できれば、地域活動の肥やしになっていくのだと思います。歴史文化散策活動の中で自然が意識できる対象があれば、より望ましいと思います。先日、愛知川源流の木地師の里を訪ねたとき、「木地師の祖」と呼ばれる惟喬親王が1100年前にこの地に幽棲されたとき、経軸の柄が風で転

がる様とドングリの殻斗を見て轆轤（ろくろ）を思い付いたと聞きました。先日の公開講演会で新幹線のパンタグラフの消音対策にフクロウの羽根の仕組みを応用したという話も興味深いものでした。1000年の時が経過しても、問題に突き当たった時、自然に学ぶことで進歩を遂げる人間の思考様式は変わっていないように思います。ただ現在は急速に人間と自然との距離が離れているように思います。自然のものを直接活用する文化から、人間が作り出したものに頼り、自然を意識することが少ない、あるいは意識しない時代になっています。幼児期にまだ自然の中での生活体験を持つ我々世代が自然を、自然の持つ意味を後代に伝えていく意義は大きいのだと思います。自然と文化科の活動がこのことを意識できる活動であれば素晴らしいと考えています。

鶴前企画専任幹事は企画委員会の運営について、自然と文化科全員の活動とすべく班活動を重視され、各班の企画幹事を中心に活動・運営する体制を確立されました。6班体制から4班体制に見直しになりましたが、班の人員が充実したこともあり、本年も各班の班幹事を中心とした企画運営を積み上げて科全体の企画活動にしたいと思っています。班毎に班企画幹事と企画委員が協力して担当月の企画を実行して頂き、科員の皆さまも全員参加の場を通じ、あるいは班企画幹事に、活動のアイデアや活動方法のご意見をお聞かせ願えば活動は充実します。

「自然の営みを理解し、人の活動を歴史的に捉え、人と自然の付き合い方を考察する活動」の理念が企画委員会のバックボーンでもあります。

科員の皆さまの主体的参加とご協力をよろしくお願いいたします。



手挽き轆轤

島熊山の雑木林を守る会

1 班 田村 仁志

雑誌「都市と自然」1991 年春頃の誌上に上記会の会員募集を見つけ参加し、25 年の歳月が経ちました。島熊山は、標高 115.7m 豊中市北部に広がる広陵で古墳時代の窯跡に始まり、万葉集の「玉かつま島熊山の夕暮にひとりか君が山道（やまじ）越ゆらむ」と歌われた歴史ある山です。現在すそ野は住宅地に変わり、尾根筋が千里緑地として残されています。標高 50～130m の山の尾根が住宅地の中を緑の回廊となって続いています。一部分の緑地を子供達や高齢者が自然体験できる場（約 6 ヘクタール、約 1.2km 幅 50m）を約 50 人の「島熊山の雑木林を守る会」メンバーで、自然観察会・清掃ハイキング・竹林の間伐・観察道の整備活動等を行っています。

晴れた日、山の頂上に立つと、北は箕面連山～五月山～六甲山まで見渡せ、遠くは大阪湾が光り千里ニュータウンが一望できます。春先を彩るコバノミツバツツジの鮮やかな紅紫色、緑濃い夏の木々、紅や黄に染まった秋の山（ははそもみじ）島熊山は、街中にありながら様々な季節の表情を見せてくれる私にとって心やすまる大切な里山になっています。同時に古くからこの地に棲み続けてきた動植物にとってもかけがえのない生活空間です。アベマキ・コナラ・ネジキ・リョウブなどの落葉樹とアカマツ・シャシャンボ・ソヨゴ・ヒサカキなどの常緑樹が混じった雑木林は、野鳥や昆虫の宝庫にもなっています。渡りの途中で羽を休めていく鳥、冬の間やってくる鳥、そして一年中この里山にいる鳥達を合わせると 30 種以上、またチョウだけでも 20 種近く観察されています。里山の代表的なタヌキのため糞を確認しています。（少し楽しくさせてくれます。）

しかし、街中の自然なので、尾根から千里ニュータウン側の 30 ヘクタールは保全緑地として残されていますが、反対側は民有地と公有地が入り込み開発されています。

最近の楽しい出来事は、昔どんぐり祭り等の企画で自然の楽しさを感じてくれた子供が成長し新しい会員になってくれた事や、雑木林の下草刈りを行っていた時、初めて見る草本を見つけた事です。写真を撮り、帰宅後、図鑑等で調べ知る喜びを感じています（オケラ）。何時までも元気に里山を守っていかれたらと思っています。

私のボランティア活動の原点「OFG」

2 班 飯田 正恒

平成 16 年に退職後、京都府大山崎町の「ふるさとガイドの会（略称 OFG）」に入会し、ボランティアガイドを始めた。当時このような組織は珍しく、京都府内でも草分け的存在で自宅のある高槻市にもこのような組織はなかった。

1 年間、町の教育委員会が行なうガイド養成講座で大山崎の歴史、文化、自然、ボランティアの精神、ガイドテクニックなどを学んだ。

この町は京都の南の外れの、小さな町であるにも拘わらず、その地理的要因から日本史の重要な局面にしばしば登場、文化的にも見逃せないものが多い。最もよく知られているのは「天王山」、「山崎合戦」であるが、それらだけにとどまらず数々の歴史が濃密に刻まれている。例えば、司馬遼太郎の「国盗り物語」に、若き日の斎藤道三が荏胡麻油商人として登場するが、その舞台・離宮八幡宮は JR 山崎駅前にある。もともと嵯峨天皇の離宮であった場所に宇佐から八幡神を勧請し創建したこの神社は、中世巨大な富の権益を持つ「油座」の中核で、広大な神領（離宮八幡宮領）はどこの藩にも属さず明治になるまで自治した稀有な例である。

文化財では、千利休作「国宝・待庵」は侘茶の茶室。大正から昭和にかけ迎賓館として造られた「大山崎山荘」は現在アサヒビールの美術館として四季を問わず多くの人々が訪れる。竹中工務店藤井厚二が住みやすさを追求した実験住宅「聴竹居」は皇后・美智子妃も見学され、大きな関心を集めている。このような数々の歴史資産を背景に、OFG は種々の活動を活発に行ない、大山崎町の生涯学習や観光行政になくてはならない組織に成長、京都府も高く評価しているボランティア組織である。会員も町民のみでなく京都市、向日市、長岡京市、島本町、高槻市からと広範囲から集まる。

現在、この会での活動をお休みしているが、いつか初心に戻り再開したいと思っている。



彦根城をたずねて

3班 張間 寛一

戦国歴史小説が好きである。旅行では城を訪れ雰囲気味わう。この春、気になっていた彦根城へ寄る半日の機会を得た。琵琶湖岸に宿泊し徒歩10数分で御蔵橋へ、ここからは雄大な堀・石垣、遠くに城、その間に鬱蒼とした森が見える。城自体の興味も大きかったが自然大学校と関係したためか植物や鳥の自然にも目が向いた。

ここの自然は城の歴史と深く関係しているようだ。城の歴史は約400年前関ヶ原の功績で井伊直正が家康から石田光成の佐和山城を貰った事に始まる。次の直継が大阪城の豊臣勢力を監視するため

現在地(琵琶湖岸の金亀山)に18年かけ平城として移築した。



城山の西斜面はシイ、ツクバネガシ、東斜面はタブノキの林が広がる。もとの照葉樹林は築城で一旦アカマツ林になったが後に自然回復で復活してきた

との事。また琵琶湖の影響で冬が温暖な事、渡り鳥が関係した事でオニヤブソテツ、タブノキ等の海岸性植物が、また黒門付近を中心に多くのシダ植物が生息している。城山にはムクノキ、エノキなどの豊富な餌にツグミ、イカル・・・堀にはコガモ、カイツブリ・・・木の上にはアオサギを糞害が生じる程大量に見かけた。

さて城自体を見ると天守は姫路城のような通し柱ではなく各階ごとに積み上げられ付櫓が附属する「複合式」三層三階地下一階である。近隣の佐和



山城、小谷城、長浜城等の建造物、石垣(牛蒡積み)が流用されている。明治維新の廃城令での解体が途中で中止、昭和の戦火も免れ、1952年に天守、

附櫓及び多聞櫓の2棟が国宝に、後に4棟が重要文化財に指定された。

今、駆け足で見た城を思い出しながら、見残した多くの自然、工事中だった名勝・玄宮院や周りの城下町をじっくり観察できる次の機会が当科の活動の中である事を期待しているところである。

奈良の椿と仏像

4班 三嶋 由理子

3月に、大和の自然と文化の会「奈良三名椿(さんめいちん)・春日野めぐり」に参加しました。一輪でも凛とした花の美しさを感じられる椿。日本を代表する原種は、ヤブツバキ・学名カメリア・ジャボニカ。

奈良の三名椿とは、白毫寺の五色椿、東大寺開山堂の糊こぼし椿、伝香寺の武士椿。

白毫寺の山門までの道からヤブツバキが咲き椿のお出迎えてでした。白毫寺の「五色椿」は、樹齢およそ400年、県の天然記念物です。花は大輪の八重で、白色・紅色・紅白紋入りのもあり、同じ木に咲くのは珍しいのだと、説明を受けました。苔の上に落ちていた椿と空の青さと苔のコントラストが、とても素晴らしかったです。

東大寺開山堂には、良弁僧正坐像(国宝)が、安置されています。命日12月16日のみ公開です。この日は、中に入れませんでした。一重咲きの紅色に白斑が入っている。「糊こぼし椿」を、堀越しに見ることになりました。二月堂のお水取りでは、ご本尊の十一面観音像に糊こぼしの造花が飾られるそうです。紅色の造花に、白い糊をこぼしたように白斑が入っている事から「糊こぼし椿」と言われるそうです。

伝香寺の武士椿は、花びらを一枚ずつ散らす、散り椿です。まだ色鮮やかというのに桜のように散ることから「潔く散る」ことから、「武士椿」(もののふつばき)と、呼ばれるそうです。

さらに楽しみが二つあり、

一つ目は、春日大社若宮社の「若宮椿」は、八重咲きで、赤い椿は小ぶりで、とても愛らしく可愛いく、咲いていました。

二つ目は、椿ではないのですが、仏像巡りが大好きな私には、東大寺法華堂(三月堂)は初めての拝観でしたが、歴史ある法華堂、静寂な空間の中で、不空羂索観音像に出会い、時間の経つのを忘れました。



私と自然工作

3班 中川 四郎

私が自然工作と出会ったのは、シニア自然大学校に入り(2004年)、初めてマツボックリとヤシャブシを使った「くまさん」「フクロウ」を作る講座の時であった。

事前に材料として各自マツボックリとヤシャブシを準備するようにとの事であったが、マツボックリはすぐに手に入ったが、ヤシャブシなんて聞くのは初めて、ましてどこで手に入るかも判らなかった。



講座日が近づくある日、ゴルフ場でプレー中、打ち込んだボールを探しにはいった林の中で偶然ヤシャブシを見つけた。こんな所にあるのかとボール探しもソコソコに大急ぎで数十個を集めて、コースに戻ったのがその後の工作材料集めの発端となった。

11月のネイチャーラリーの責任者に押され、各班の出し物の調整、各班の工作のテーマの検討、材料集めに走り回るうち、工作の幅の広さ、種類の多さに興味を持つようになった。

自然と文化科に入ってから、イベントの工作担当やシニア観察会のお土産「モックン」作りを担当し、シニア観察会現場に材料を持ち込み出来立てのホヤホヤをお土産としてお渡しすることもある。

2005年のコンテンポラリーアート展に初めて個人作品として「丹頂の群舞」



を出展した。

当時は結構多くの個人・グループが出展されており初心者でもあ

まり意識せずに出展できたように思う。その後毎年出展を重ね常連となってしまったが、年度が替わる4月頃から「今年のテーマは?」「どんな材料を使って?」と苦しみが始まる。テーマが決まれば後は色々材料を変えて気に入った単品が出来るまで何十個と試作を続ける。単品作品を組み合わせると一つの作品に仕上げるが、ほぼ毎年着手から完成まで4~5ヶ月を要している。

2008年に自然と文化科の初めての同好会として、有志の協力で「自然工作同好会」を立ち上げた。これは自然と文化科でもっと幅広く自由な活動を広げようという動きに呼応したもので1回/月、会

員の中から講師を選び講師の指導で色々なジャンルの工作を楽しむもので、幸い今年で9年目を迎えることができた。えることができた。

また成果発表の場としてコンテンポラリーアート展にその年に作った作品をまとめてグループ出展し来客に好評を博している。

今後も工作を通じて色々な場で色々な人と交流を深め創造する喜びを伝えていきたいと思っている。



2009年 犬の楽園



2010年 パンダワールド



2012年 デッドヒート



干支のサンプル



マイブーム

1班 堂下 登美子

マイブームはツユクサの苞の中をのぞいた時から始まった。2015年夏の事だ。コップに挿しておいたツユクサの花が花びらや雄しべ等を落下させることなくクルクルと身ざれいにしぼむ姿を見た。苞の中が気になり開けた。子房が3個もあった。1つの苞からは1つの花ではないのか。他の苞も調べると2〜3個あった。インターネット(略ネット)で調べると苞からは数個の花が咲くとあった。花卉の1枚が隠れていたり、雄しべが3種類もあったりして不思議な花だなとは思っていたが、不思議をもっと見つけたくなった。ツユクサをまた手折って来て、観察を開始した。

そのうち、ネットで2つの花が同時に咲く写真や、苞の所に毛が多いケツユクサの写真を見た。実物を見たいなと思っていると、運良く、その秋の間に平城宮跡と嵯峨水尾で前者、武田尾の観察会で後者を見ることが出来た。



ツユクサ科がマイブームになっていた秋、友人にオオモクゲンジの花を見に行こうと誘われた。場所は難波宮跡公園である。黄色い花をびっしり付けたオオモクゲンジが1本立っていて、その手前に溝があった。友人が薄紫色のツユクサらしきものをそこで見つけた。驚いたことに、しべが薄紫色に染まっていて、なんともみずみずしく美しい。ネットで調べると最近確認された帰化植物のフジイロタチツユクサらしい。もう少し知りたくて再度出かけた。遺構には縦横に溝が張り巡らされていて、そのほとんどにフジイロタチツユクサが生えていた、というよりはびこっていた。多くは溝のへりに沿って立ち上がっていた。石ころや土にしがみついていた根を引っ張り上げて1株持ち帰り室内で育てた。



10月下旬、種子が落ちていた。ツユクサの種子とは全く形が異なる。形だけではなく一方に白っぽいものが付いていた。調べるとスミレ類の種子に付いているのと同じエライオソームとのこと。アリにも種子散布させているようだ。



ツユクサの苞内の子房の数から、2つの花、ケツユクサ、フジイロタチツユクサへと興味が広がった去年。今年もマイブームはツユクサ科だ。

自然保護のアピールと私たち

2班 坪井 都子

先日「洞川自然研究路」のクリーンハイクに行ってきました。天川村・洞川は紀伊半島中央部に位置し、豊かな自然と歴史を誇る地。このクリーンハイクは毎年「日本勤労者山岳連盟」(略; 労山)が全国一斉に取り組んでいる自然保護活動のひとつです。

【クリーンハイクの設定】

私は18年ほど前、大阪で山の会の山歩きに参加したのがきっかけで山に魅せられ、現在は労山の一員でもあります。労山は1974年に6月の第1日曜日を「全国いっせいで清掃登山・クリーンハイクの日」と設定して山からゴミをなくす活動を提案しました。今年で43回目の取り組みです。昨年は42の都道府県連盟の総勢8911名が参加し、ゴミを8523kg回収しました。ちなみに今回の洞川では24名が参加し、51kgのゴミの回収でした。

【自然保護のアピール】

1978年の労山趣意書では「豊かな自然は将来にわたる国民の共有財産であり、守り育てていくことが登山者の責務である」とうたい、



2006年制定の労山自然保護憲章では「登山者のモラルを高め、山からゴミを一掃し、培った力で多面的な自然保護活動を広げていく」と宣言しました。

さて洞川の自然研究路そのものには、ゴミは殆ど見当たりません。が、道の脇1m以上先に空缶が投げ捨てられているのです。そして展望所の下勾配のきつい作業場にたくさんの缶・ビン・弁当ガラ等が無造作に放置されていました。上記回収51kgの半分はこの作業場のゴミでした。山で仕事をする人のモラルの低さの問題です。行政に伝え、業者への指導を提言しました。

こうして登山者が努力してきたゴミ清掃活動は今や一般の人に広がり、日本の社会全体にも輪が広がっています。自然を愛するシニア自然大学校も当然クリーンハイクに参加しています。私たちはこれからも山に来る一般の人々、また来日し登山を楽しむ外国の人々にも声をかけ、自然を守っていかねばと思います。

「山が泣いている？」

3班 堀内 信彦

いにしえに豪族が住み平安のころ貴族が野に遊んだ自然と文化の交差する交野。京都、大阪、奈良まで5里、恵まれた環境の地。

本題と離れるが、嵯峨天皇(第52代 在位809～823)の皇后、橘嘉智子(橘諸兄の曾孫)は河内の国交野郡で生まれ育ち、交野に狩りに来られた神野親王に見初められ後宮に、親王が即位されると選ばれて皇后に。天性の美貌と才智を備え世に類なき麗人と称えられ夫亡き後も大いに勢威を誇ったという。死して自分の腐りゆくさまを絵(九相図)に残させた壇林皇后。(諡号を送られた皇后は神功、光明、壇林、貞明、香淳の5人とのこと)陵は嵯峨野の奥、愛宕神社第一鳥居左を更に奥らしい。

エッ交野?と思われる方への紹介です。白州正子さん著「十一面観音巡礼」からの抜粋。

こんな交野?今も自然豊かな里ではあるが、小規模宅地開発が無造作に進み田畑が減り、遠くきれに見える山もナラ枯れと竹の浸食で手入れする人もなく「山が荒れ泣いて」いる。

美しい自然環境を後世に残すこと、課題であり自然に学んだ者の使命?「交野市環境基本計画推進会議」が市と一般市民との協力で5年前に始まり「自然環境部会」でボランティア活動として里山保全等のテーマに取り組んでいる。

知ってもらうこと(自然観察会)人を集め育てること(未来の里づくり講座=人材育成)そして再生(里山保全の実践)まだ、市所有の限られた場所で訓練と実践中であるが、人も少しずつ集まりはじめ、これから活動の場を広げて行くことを目標に仲間と頑張ろうと思っている。

シニア自然大学校で学んだことが役立っているし助けられてもいる。学んだことを実践に生かすことは中々難しいが、いろいろな人との出会いがやることを教えてくれる。

川や野山の生き物や、植生調べとも思いはいっぱい、欲張っている。興味のある方は誰でも参加できるのでよろしく。

仲間が昨日、交野山の頂上の磐近くで“野兎”の子どもがいたと写真を見せてくれた。感激!

昔の人に、そして未来の人に恥じることのない環境が残せることを夢に・まず、体力づくりかな～酒は少し控えようかな。もう遅いか?

6月号俳句・川柳

1班 谷坂 修二

4月ハイキング

散華踏み青空観あぐタムシバ花
山桜ここにもあると花筏
山並みに笑窪に見える山桜
もう一歩すみれが誘うもう一歩
踏まれずに脇道に咲く猩々花

写真

3班 星田 京子



2015年4月1日長野県中山高原
後ろは鹿島槍と爺が岳



2015年5月7日同じく中山高原
ほぼ同じアングルで

秋、蕎麦の刈り取りと同時に菜の花の種をまく。
菜の花の種は2mの雪の下で冬を過ごし雪解けとともに発芽生育。そして一面の菜の花……。その間約1か月。生命力に感動!!

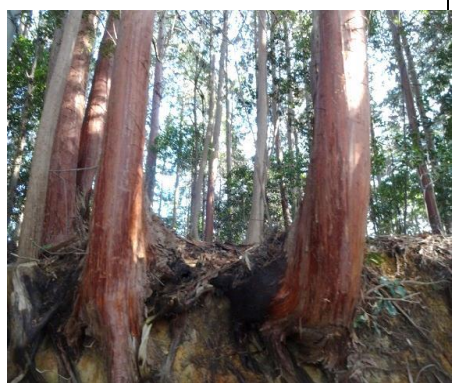


樹形 ウォッチング

3班 遊上 眞一

樹皮の表情で、樹木を当てましょう

(ヒント：あいうえお順に 並べてあります)

		
コンクリートの樹	ダイヤ形の模様	鹿の子模様
		
トゲが コブに変化	曲線美をご覧ください	紙状にはがれて、良く燃えそう
		
トゲ付きの ネックレス	小さな粒が集まって出来たよう	屋根を葺くため、樹皮を採取
		
樹皮がはがれて ヒンヤリ冷たい	文字を彫ると、そのままの形で残る	割れて はがれて ハゲました

新人紹介コーナー		①：氏名 ②：所属 ③：講座生の期、組 ④：住所 ⑤：他の所属 ⑥：得意分野・趣味等	
	① 田村 仁志 ② 1 班・観察 ③ シ 20 期 花組 ④ 豊中市 ⑤ 野草料理を楽しむ会、ソラード、ネイチャー学志山歩会		① 大釈 金呉 ② 2 班副班長・観察 ③ シ 21 期 花組 ④ 高槻市 ⑤ 京とおうみ自然文化クラブ
⑥ 箕面の自然を楽しみたいと思っています。観察を通して植物の奥深さを知りたいです。ご指導の程よろしくお願いします。		⑥ 素晴らしい諸先輩方の自然との交流の仕方、歴史文化の学び方を少しずつ、ゆっくりと吸収したいと思います。ご指導宜しくをお願いします。	
	① 今本 芙佐子 ② 1 班副班長・調査 ③ シ 21 期 風組 ④ 大阪市福島区 ⑤		① 寺尾 修 ② 2 班・社会貢献 ③ シ 21 期 緑組 ④ 大阪市旭区 ⑤ ならなぎ、武庫ネイチャー、自然学
⑥ 高山植物が好きで、山野草に興味を持つようになりました。他には古典芸能が好きで、出来るだけ見に行くようにしています。		⑥ 本科、高等科と未消化の状態を終了したような感があり、この科を選びました。休止状態を好む我が前頭葉との戦いを続けたいと思います。	
	① 大石 博司 ② 1 班副班長・調査 ③ シ 21 期 緑組 ④ 茨木市 ⑤ ネイチャー学志山歩会、森と海の自然科		① 中澤 重文 ② 3 班副班長・調査 ③ シ 21 期 緑組 ④ 生駒市 ⑤ ならなぎ、いこま棚田クラブ
⑥ 得意分野：山歩き、サイクリング 抱負：樹木、草木の知識を深めたいと思っています。		⑥ 好きなことは歩くこと。毎週生駒山に登っています。街道歩きも大好きで、今年は東海道を歩いています。	
	① 阪上 正方 ② 1 班・調査 ③ シ 21 期 風組 ④ 池田市 ⑤ はばたき		① 張間 寛一 ② 3 班・調査 ③ シ 21 期 風組 ④ 川西市 ⑤
⑥ 何でも「広く浅く」の人間なので、得意分野はありませんが自然の中を歩くことは大好きです。		⑥ 得意分野は特にありません。少しでも自然を理解し、色んな活動に参加して頭と体の健康を保ちたいと考えています。よろしくお願いします。	
	① 鈴鹿 絹代 ② 2 班・観察 ③ シ 20 期 花組 ④ 吹田市 ⑤ 森之宮少年少女発明クラブ		① 華崎 律子 ② 3 班・調査 ③ シ 21 期 緑組 ④ 吹田市 ⑤ 武庫ネイチャー
⑥ 植物の名前はほとんど知りませんので、いろいろ教えてください。 得意分野は強いていえば琴の演奏（生田流）です。		⑥ 植物、鳥についてもっと知りたいと思って入りました。学べる環境に期待しています。	

新人紹介コーナー

	① 福家 千津子 ② 3 班・観察 ③ シ 21 期 風組 ④ 宝塚市 ⑤ 箕面探索会、箕面花ごよみ
⑥ なし・取りあえず「名」を覚えることからです。	
	① 三嶋 由理子 ② 4 班・調査 ③ シ 17 期 緑組 ④ 大阪市東成区 ⑤ 山野草を愉しむ会、京とおうみ自然文化クラブ、はばたき、大和の自然と文化の会
⑥ 自然と文化科の活動についていけるように、楽しみながら頑張ります。ご指導よろしくお願いします。	
	① 村田 玲子 ② 4 班・調査 ③ シ 21 期 緑組 ④ 枚方市 ⑤
⑥ 観たい、聞きたい、知りたい気持ちが満足できるよう、楽しく学び、楽しく活動出来る場になればと思います。	
	① 安井 博司 ② 4 班副班長・企画 ③ シ 21 期 緑組 ④ 大阪府島本町 ⑤
⑥ 自然と文化科の先輩の皆様に接し、改めて自然観察の奥深さを感じています。少しずつでも進歩したいと思います。	
	① 渡辺 文子 ② 4 班・調査 ③ シ 21 期 花組 ④ 交野市 ⑤ ネイチャー学志山歩会、交野自然の杜クラブ、淀川自然クラブ、山野草を愉しむ会
⑥ 特に得意分野はありません。自然の中で遊ぶのは大好きです。皆様の活動についていけるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします。	

惜 別



野村健次氏の死を悼む

宮澤 富美雄

5 月 29 日、野村健次氏が逝去された。その少し前、急性骨髄性白血病という難病で入院されたと聞き、心配していたのだが、来ないで欲しい、という彼の言葉もあり、見舞いは控えていた。

一方で、「治った」という俳優の話も聞いていたし、病室で広報の業務をこなしているとも聞いていたので、「きっと彼も治るだろう。また一緒に飲めるさ」と楽観もしていた。しかし、その願いは叶わなかった。突然の死であった。

『さまざまのこと思い出す桜かな』読経を聞きながら、ふとこんな句を思い出していた。高等科で初めて会った日のこと、タバコを吸っている姿、ビールは必ず瓶入りと決めていたこと、などなど。

どちらかと言えば寡黙な人だった。「家でも寡黙な父でした」と葬儀でご子息が語っておられた。写真の彼は、おだやかに少し微笑んでいた。

今、この原稿を書いていると、改めて、彼がもういない、ということを実感する。別れはいつも悲しい。

合掌。

自然と文化だより
皆様のご協力により 29 号が発行出来ました。投稿をいただいた皆様、有難うございました。(広報委員会)